

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470101934
法人名	社会福祉法人 報徳会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 日々庵きづな
訪問調査日	平成19年11月 2日
評価確定日	平成20年 1月15日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4470101934
法人名	社会福祉法人 報徳会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 日々庵きづな
所在地	大分市大字下郡941-3 (電話)097-567-5566

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年11月 2日	評価確定日	平成20年 1月15日

【情報提供票より】(平成19年10月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(10月19日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福光医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 利用者本位の生活をしてもらえよう、家庭と同じ雰囲気ですぐに過ごせるように職員が努力している。
2. 食事は利用者の希望を聞いて食べたい物を取り入れ、職員と一緒に調理したものを食べ楽しく過ごしている。
3. 入院中はお見舞いに行き、医師との話し合いを行い、家族との連絡を密にして、依頼があれば洗濯物のお世話などもしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受審後、改善項目への取り組みを行っていない。今後は年に1回の受審により、評価結果の活用や気付きについての改善に向けた取り組みが求められる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で取り組むようにし、評価結果に基づいたサービスの質の確保や向上に向けた取り組みを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は年に1回しか行われておらず、家族のみの参加である。今後は、市職員、地域包括支援センターの職員、地域住民などにも参加を働きかけて、運営推進会議を地域との連携やグループホーム運営に活かすことが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に状態報告をし、遠方の家族には請求書と一緒に近況報告や行事の報告をしている。苦情については苦情箱の利用もないので現在は設置していない。年に1回アンケートを行って意見を聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し地域住民との交流に努めているが、高台に立地しているため、行事の案内をしても参加がない。学生のボランティアは来てくれているので、グループホームからも積極的な取り組みを行い、地域の人が訪問してくれるような工夫が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は施設訓として法人が掲示したものであり、グループホーム独自のものではない。	○	理念はグループホーム独自のものとして、地域密着型サービスの役割を考えた内容の理念をつくることが望まれる。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングの際に職員は理念に目を通し、利用者に対し思いやりの心で接するよう、理念の実践に向けて全職員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、地区の小学校や中学校のボランティアを受け入れ、夏祭りには地域住民の参加を呼びかけている。	○	行事参加の呼びかけをしているが住宅と離れた立地条件であるため地域住民の十分な参加を得られない。不利な立地条件をクリアして地域に溶け込んでいく工夫や積極性を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価における指導等を受けての改善および実施の取り組みが不十分である。	○	今回の評価により改善シートを作成し、サービスの質の確保やケアの向上に向けた取り組みが望まれる。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年1回しか行っておらず、家族だけの参加で、行政や地域包括支援センターからの参加はない。行事報告や計画の紹介だけで終わっており、出席者の意見や支援を得る会議となっていない。	○	事業所運営に反映されるよう、運営推進会議の目的や役割を理解し、活発な会議となるよう工夫することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との相談業務は行っているが運営推進会議に参加していない。	○	市担当者へ積極的にグループホームの活動を報告したり運営推進会議の経過を相談して関わりを持つことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の暮らしぶりを報告している。遠方の家族で3ヶ月から半年に1度しか来ない方もおり、そういう場合には、毎月の請求書を送付するときに利用者の状況を詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付は重要事項説明書に明記している。今年度は8月にアンケート調査も行ったが、苦情や意見は出なかった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者に影響があるので、リスクを考え、現在は退職した以外の異動は行っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加は可能な限り参加するようにし、個々の資格取得なども促している。また、研修報告書は他の職員にも見せ、発表の場も作って全職員で共有しているが、新任者研修が実施されていない。	○	職員の質の向上のためにも、計画的な研修の実施が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会などの同業者の団体には加入しておらず、他施設と形式的な交流はあるものの十分とは言えない。	○	他事業所との勉強会や相互訪問などを通じ、サービスの質の向上や職員育成につなげていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設体験をしてもらったり、利用者本位のサービスを実施するため家庭に職員が訪問して話し合いを行うなど、安心して利用開始ができるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がフェイス・シート気づきを記入し、記録を読むことにより利用者を知ることができる。また、利用者からは経験したことを教えてもらう等、支えあう関係になっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時とケアプラン変更時に希望を聞き、一人ひとりの思いや希望を汲み取るようにしている。また、聞き取り困難な利用者は、スタッフが生活歴や日常会話の中から情報収集をし、利用者にあったものを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が本人・家族と話し、希望や意見を聞いてケアプランを作成している。しかし、全職員で話し合っただけでケアプランを作成していない。	○	全職員で意見交換やモニタリングをして、利用者本位の介護計画を作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行い、状態の変化があれば家族に報告して随時ケアプランを変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院している利用者へは家族の依頼により洗濯物を洗って届けたり、かかりつけ医への通院介助などして柔軟な支援を行っている。		
。					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医への受診を事業所として支援している。また、遠方から入居している利用者でかかりつけ医のないときには、利用者、家族へ情報を提供して、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての説明は利用開始のときに行っている。基本方針としては退所だが、利用者の希望などによっては検討するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の声かけに注意し利用者の自尊心を大切にプライバシーを損ねない配慮をしている。記録や個人情報が見えないよう個別的に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、職員の都合を優先せず個々の希望に沿って、利用者に合わせてペースで支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を聞き献立作成に活かし、食事の準備や後片付けも職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞き、1日おきに個別入浴を行っている。月2回は隣接するデイサービスの温泉で気分転換を図っている。車イスの利用者は週1回デイサービスで温泉を利用し全介助での入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かして、編み物、畑仕事、洗濯物たたみ、絵画等を行い、百人一首、カラオケ等の楽しみごとの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画があり、希望があれば天気の良い日に外気浴をしたり、散歩や、買い物へも同行するように声かけを行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室、窓など鍵はかけてなく自由に入出入りしている。職員の見守りのために入入口にはブザーが取り付けられており、利用者の動向を把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や初期消火の訓練はしている。また、夜間訓練も年2回行っている。災害時の食料等の備蓄はしていない。	○	災害時における今後の取り組みとして、地域への相互協力の呼びかけや、災害に備えた食料品・飲料水等の物品を準備することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量は一人ひとりの状態に応じて提供し、食事量の少ない利用者には体力低下を防ぐために高カロリードリンクも準備している。全職員は、利用者の水分量、食事摂取量のおおよその把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーの横には畳の部屋もあり炬燵でゲームや会話をして過ごし、雰囲気合わせた音楽も流れている。吹き抜けの天井から柔らかい光も差し込んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や物品を持ち込み、家庭での生活に近い雰囲気でも過ごせるようにしている。また、利用者の必要と思われるものを置いたり飾っている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	社会福祉法人 報徳会 認知症対応型共同生活 介護グループホーム 日々庵きづな
所在地 (県・市町村名)	大分市大字下郡941-3
記入者名 (管理者)	河村健児 (田島 亜由美)
記入日	平成 19 年 10 月 19 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位の姿勢で取り組んでいます	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者本位の姿勢で取り組んでいます	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	施設パンフレット・広報誌で近況紹介している	広報活動は今後も続けて行きたいと思います。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	隣接者から季節の果物などをいただくこともあり、いい関係が保てていると思う	身近なところから地道に活動して理解を深めていきたいと思っています。
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域からの来場のあるデイサービスセンターが隣接しているので行事等の参加を交流の場として参加している	行事参加として立地条件が不利ではあるが今後、積極的に取り組んでいきます

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の勤務体制上可能な限り電話などの相談に対応している、又福祉施設の情報を活用して相談者への情報提供に努めている		今後、広報活動等の結果として貢献していければと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容については、改善内容を把握し取り組んでいく		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、状況報告以外に、質問・意見をいただき施設運営に反映させていく		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	関係機関と並んで今後も向上につとめる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の活用については、家族・関係者との話し合いを行う		制度の理解と活用方法について今後も研修等で学習していきたいと思います
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の意識統一をふまえて研修会等を実施して行きたいと思えます		虐待に対して統一した見解をしていくために広く情報収集し定期的に話し合っていきたいと思う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前には必ず現在の施設状況を確認してもらい契約を結び、又解約時も退室状況、体質にあたった敬意についての説明を行い、解約をしてもらう	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの訴えについては、施設内での退所の他に、家族・関係機関への相談にて対処	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の請求時に連絡のほか、家族の来所時・直接連絡での対応をし、季刊誌も状況報告の一部として考えている	個々の情報についても迅速に対応していきたいと思う
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付は重要事項に明記し、ご家族に説明をしている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等の場で徴収	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況によって臨機応変に対応している	柔軟な対応を行なっていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動によるリスクは最小下にするため大々的な移動は控えている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の参加には可能な限り参加をし、又個々の資格取得なども促している	可能な限り研修以外の質向上に係わる情報収集にも対応していきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の参加には可能な限り参加をし、他施設との交流等で情報交換をしている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	突発的な勤務変更などにも柔軟に対応している	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	行事等の主席や定期的な会議での意見を徴収している	今後も職場環境の質向上にあたっていきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの発言を受けとめ、困っていることなどを把握するようにしている。	○ 相談・訴えの内容を聞き取り、受けとめるようにする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、本人の状況や困っていることなどを聞き取るようにしている。	○ 家族からの相談内容を聞き、受けとめるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の希望を踏まえ、今必要とされているサービスは何かを決めている		今後も柔軟な対をうがができる環境を引き続き整えていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本位を主とし、共同生活を楽んでもらい、必要なサービスを実施していくようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の立場にたったケアを行ない、その人が経験したものを聞き、または学んだりしている。	○	入居者の喜怒哀楽を共にし、いろんなことを学んでいき支えあう関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に考え相談しながら入居者が生活しやすいよう取り組んでいる。	○	喜怒哀楽を共にし、一緒に支えていけるように関係を築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係を把握し、良い関係が保てるようにしている。	○	行事参加の声かけを行いながら、訪問してもらえるように支援していき、良い関係を築いていけるようにしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の関係を大切にし、訪問しやすい環境作りや声かけを行なっている。	○	馴染みの関係を保つように、環境作りや声かけなどしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間関係を把握し、良い関係を保てるように支援している。	○	孤立しないよう関わり合いを大切にし、良い関係を築くように支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	対処後、必要に応じての相談等の対応はしていく		現在も進行中のケースを持ち家族にも安心していただけるように配慮していきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時・ケアプラン変更時に本人から希望を聞き、困難な場合や無いときには本人にあったものを検討している。	○	希望をくみ取り把握していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族などから、生活歴や環境などの情報を聞き取り、把握している。	○	情報収集の不備をなくし、その人の生活歴などの分るようにしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人・家族から情報収集し、個々の過ごし方や状態などを把握している。	○	個々の過ごし方などを把握する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と話し希望や意見を反映したケアプランを作成することを心がけている。	○	本人・家族の希望や意見を聞き出せるよう支援を行ないケアプランに反映する
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行なうと共に、状態の変化があれば家族に報告し随時ケアプランの変更を行なっている。	○	定期的見直しはもちろん状態の変化があれば、本人・家族・関係者との話し合いをもち、ケアプランの変更をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録にて情報の共有を行ない、カンファレンスで検討しケアプランの見直し等をおこなっている。	○	記録を行ない情報の共有をし、ケアプランの見直しに活かし実践していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内の機能・設備を柔軟に利用できるようにしている(温泉等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の警察、自治会、美容院などに協力を得られ、又地域のボランティア活動の受け入れなども行っている		今後も定期的な受け入れをしていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人内の利用可能なサービスがない、入居以前からのサービスの継続希望などに対応		状況に応じた対応をしていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在直接的な係わりはないが、入居の相談・入居対象者であるかの相談には対応している		状況に応じた対応をしていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ受診をおこない、またかかりつけ医が無い方には、本人・家族に情報提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。	○	かかりつけ医で医療を受けられるように支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>個々の主治医(専門医)への相談等を行っている</p>	<p>今後も家族経由または、直接連絡を取っていききたいと思う</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同法人内の看護職員に協力をしてもらう、又日常的な看護の対応についても相談している</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>情報提供を行なっている。また、病状経過の提供をもらい退院に向けての準備などを行っている。</p>	<p>○ 病院関係者との連携をもち、情報交換をしていく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人や家族に説明を行ない、関係者間での話し合いをし方針を決めている。</p>	<p>○ 早い段階で、話し合いを持ち方針の共有を行なう。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化に対し、家族・医療機関との連携をとり今後の方針の検討などを行なっている。</p>	<p>○ 入居者がより良く生活できる為、家族・医療機関との連携をとり、検討や準備を行っていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人や家族に説明を行ない、また関係者間で情報交換を行なっている。</p>	<p>○ 十分に話し合いを持ち、住み替えによるダメージを防ぐようにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>個々の性格等を踏まえ自尊心を大切にするように心懸けている。個人情報になるものについての管理は改善が必要</p>	○	職員のコミュニケーションの再確認を行ない対応をする。記録等の個人情報の管理を徹底していきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>入居者の希望を聞きそれに対し支援を行なっている。また、希望などを表せない方には、職員が希望をくみ取り援助を行なっている。</p>	○	入居者の思いや希望を表せるように、職員との関わり方や入居者同士でのコミュニケーションを行なっていきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>入居者のペースを大切にしているが、時には職員の都合で行なっていることがある。</p>	○	個々の希望にそって支援できるように行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>訪問美容室を利用しており、本人・家族の要望に沿うように実施している。行きつけの店がある方には、付き添いで実施している。</p>	○	入居者の要望に沿うように支援していき、身だしなみには気を配れるように支援する。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>献立を作成する際に、入居者の食べたい物を聞き、取り入れたりしている。準備や片付けを職員と一緒にしている。</p>	○	入居者の力や経験を活かしながら行なう。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>病状によるが、希望があれば嗜好品の提供を行なう。</p>	○	希望があれば提供していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンのチェックを行ない、声かけ・誘導を行なっている	○	適切な時間のトイレの声かけ・誘導の徹底
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに行ない個別入浴を行なっている。ゆっくり入浴が出来るように実施をしている。また、月2回、隣接するデイサービスで温泉入浴を行ない、日頃と違った入浴を味わってもらえるようにしている。	○	1人ひとりが自分のペースで入浴できるような介助を行なう。希望があれば夜間入浴の検討も行なっていきたい。浴槽内での安全
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後はゆったりと過ごしていただき、希望やその日の体調に合わせて、居室への誘導を行なっている。また、昼夜逆転の傾向のある方への声かけ、レクなどへの参加の促しを行ない、夜間ぐっすり休んでもらうように支援している。	○	昼夜逆転の傾向のある方への昼間の声かけ、活発な活動をしほどよい疲れをとってもらうなど夜間の安眠への取り組みの定着化
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、行なうレクにおいて、文化系(百人一首、合唱、カラオケ等)や体育系(卓球、体操等)様々なものの中	○	レクで行なうものの幅を広げ、新しいレクを取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で外出した際、希望があれば好きな物品の購入をおこづかいの中からできるようにしている。	○	行事の中に、買い物を目的としたものを取り入れるように検討する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば外気浴や週2.3回散歩を行なっている。また、週3回ある食材の買い物への同行の声かけを行なっている。	○	天気の良い日には希望に応じて、短時間でも外気浴が出来るようにする。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として年に4～5回、その季節や入居者の興味に応じた場所への外出をしている。	○	行事で行く場所を決める際、入居者への聞き取りを行ない、さらに希望を優先できるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、支援している。	○	希望があれば、支援をしていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように、声かけなどを行っている。	○	いつでも訪問してもらえるように、環境の工夫をしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いかなる状況においても身体の自由を奪うケアでなく個々の自由を活かすケアを心がけています	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なるべく行なわないようにしているが、状況により鍵をかける場合がある。	○	鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認や様子を定期的に行なっている。	○	プライバシーに配慮しながら行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険になるものを排除したりまたは、管理をしている。	○	一人ひとりの状態に応じて対処し取り組んでいく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルがあり、対応できるようにしている。	○	職員が一人ひとりの状態に応じた取り組みが出来るように、知識・技術を学んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフルームに、急変時の対応の仕方マニュアルを作成しており、職員が把握できるようにしている。	○	定期的に訓練を行ない、急変時などに対応できるようにする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、入居者・職員参加により避難方法や初期消火の仕方を行なっている。	○	水害・地震時の対応の実施を行なう。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時・ケアプラン変更時に家族に説明を行なっている。	○	状態の変化に伴いリスクについて話していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週一回バイタルチェックを行ない、また入居者の訴え時や普段と違う様子があれば実施し記録を行なっている。	○	体調変化の早期発見が出来るように、職員の気づきや対応を身に付ける。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理を行ない、薬の目的や把握している。	○	全職員が服薬の把握に努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の状態などを確認しながら、毎食・おやつ時等に水分補給を行なっている。レクリエーション時には、体操を取り入れている。また、下剤の使用を行なっている。	○	便秘の理解をする事や食事・水分の工夫をする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、歯磨きの声かけや義歯洗浄を実施し、その人に合った口腔ケアを行なっている。	○	歯科医師・衛生士の指導により、口腔ケアの仕方を学び徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに応じて、食事介助や好みに合わせた物の提供、高カロリードリンク等を使用している。また、日中だけでなく夜間も水分補給が出来るよう配茶や声かけをおこなっている。	○	検食を厳しく行ない、栄養バランスの摂れたメニュー作りをする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに沿って実施している。	○	感染症の知識を身につけ対応する
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日使うフキンやまな板等の消毒、漂白の実施。調理を行なう際のこまめな手洗いの実施。	○	今後も消毒・漂白、こまめな手洗いの徹底
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	必要最低限の物のみ設置、また花などを置き、気持ちの良い環境作りをしている。	○	花などのこまめな手入れを行ない、さらに気持ちの良い空間作りをおこなう。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明、音量などの調整を行なっている。また毎月、その季節に応じた展示物の作成を展示している。	○	展示物を定期的に張り替えをし、マンネリ化を防ぎ適度な刺激を与え気分転換が図れるようにする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、談話室・リビングを自由に行き来できるようにしている。	○	レクへの参加は無理強いせず、本人の希望に合わせ他の好きな事を自由に出来るような環境作りをする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	居室の空気の入れ替え、掃除の徹底をする。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	共有の空間の湿温度調整をこまめに行なう。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	見守り、介助の徹底をする。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	表示する物の色を見やすく目のひく色にし、さらに分りやすくする。
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	常時、季節に応じた草花を楽しめるようにする。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者一人一人の個性を活かしたプログラム・生活援助等を心がけています。食事のメニュー・外出プログラム・日常の活動等に入居者のリクエストを取り入れるなど、より